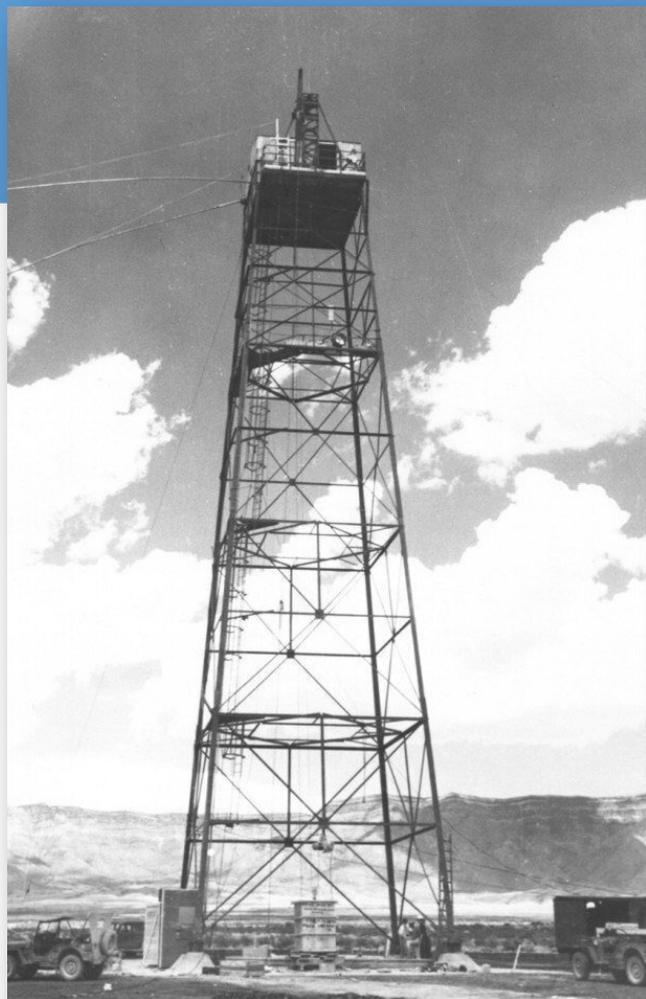




核兵器廃絶への科学史、科学者そして市民の責任

『原爆の父』オッペンハイマー その“栄光と没落”から考える



オッペンハイマーが指導した核兵器開発『マンハッタン計画』で人類最初の原爆「ガジェット」を吊り上げた実験塔（実験は1945年7月16日に成功）https://note.com/kaede_9596/n/ne66dcde75a31

2024年10月19日（土）13:30～
JR石川町駅徒歩5分 労働プラザ4F

講師 **山崎 正勝** 東京工業大学名誉教授

1944年10月 生まれ、物理学者、科学史家、理学博士。専門は科学史、社会科学史、物理学史。1996年に翻訳書『アインシュタイン』（岩波書店）で産経児童出版文化賞を共同受賞、2012年『日本の核開発：1939～1955 - 原爆から原子力へ』（績文堂）で科学ジャーナリスト賞を受賞、2021年8月7日初回放送NHK ETV特集『日本の原爆開発～未公開書簡が明かす仁科芳雄の軌跡～』、2023年『証言と検証 福島事故後の原子力 あれから変わったもの、変わらなかったもの』山崎正勝・館野淳・鈴木達治郎編（あけび書房）、学習の友 2024年7月号『オッペンハイマーと阻止できなかった核開発競争』など著書多数 (<https://44yamazaki.wixsite.com/personalcv>)

科学ジャーナリスト賞2012 「日本の核開発：1939～1955 - 原爆から原子力へ」の著作に対して 日本の原子力開発の歴史を、戦時下の軍事研究から説き起こし、占領下から戦後の原子力基本法の制定まで、詳細に追った。そもそもの「原点」の解明は必要なことであり、科学ジャーナリスト大賞2012の「NHKのETV特集「原発事故への道程」（2011年9月18日、25日）と重ね合わせると、「その意義はいっそう大きい」という指摘も選考委員からあった。

研究交流会（同会場） 14:40～16:40 話題提供

- ①有機フッ素化合物（PFOS・PFOA）静岡理工科大学元教授 惣田晃夫
- ②気象変動と海洋環境 元水産研究所所長 中野 広
- ③環境教育と地域 松蔭大学教授 鈴木秀顕
- ④『図説 歯からみた生物の進化』鶴見大学名誉教授 後藤仁敏……発表者とテーマは予定です

